

文学館だより

令和 2 年 3 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

いちじ ふか やよひ
一時の鐘とほくよりひびきいや深に三月風吹く夜のなやむかな
明治43年作。『創作』第1巻第1号「茫漠の命より」と題し、34首掲載されている中の1首。
若山牧水全歌集 参照 『路上』収録

まつむら ゆりこ くろいわ たけよし 松村由利子さん 黒岩剛仁さん 第24回若山牧水賞受賞おめでとございます



令和2年2月12日 受賞祝賀会にて

9年ぶり、お二人同時受賞に輝いた第24回若山牧水賞授賞式、及び受賞祝賀会が2月12日（水）宮崎市において盛大に開催されました。翌13日（木）は、まず日向高校を訪問。1、2年生を対象に、牧水を語り、ご自身が短歌を始めたエピソードを話され、生徒が詠んだ短歌を講評されました。牧水先生を身近に感じ、短歌を始めるきっかけとなる若者がいてくれるとうれしいです。

午後の受賞記念講演会を前に、今年も牧水生家と若山牧水記念文学館にお立ち寄りくださいました。歴代の若山牧水賞受賞歌人が並ぶ企画展示室では、受賞当時のお仲間の写真を懐かしくご覧になられ、照れながらもご自身の展示に見入っておられました。

黒岩さんは、父立蔵と鮎釣りをした牧水と、お父様とキャッチボールを楽しんだご自身とを重ね合わせられたようで、しばらく釘づけになっておられました。その姿がとてもうれしそうで、印象的でした。

生涯初のカーブを父に投げ込みし野球場には芝生なかりき 黒岩剛仁
おもほへば父も鮎をばよく釣りきわれも釣りにきその下つ瀬に 牧水



更に、学生時代に好きになった人が短歌を詠んでいたから短歌を始めたとお聞きし、これまた一気に距離が縮まったように感じました。以前の私にとって、短歌は教科書で学ぶだけのものでもありませんでしたが、いつの日からか身近なものになってきています。私にも「読む」から「詠む」に変わる日があるのでしょうか。

写真左 松村さんの直筆原稿を見ながら...
写真右上 牧水が生まれた生家縁側に腰掛けて...
写真右下 ペンの持ち方も進みも対照的なお二人...



3月と言えば・・・

3月と言えば・・・『創作』第1巻第1号が発行された月。
明治43年のことでした。

明治41年	早稲田大学卒業（23歳）
明治42年	中央新聞社入社。社会部記者として腕を振るうものの在社わずか5ヶ月で退社。その年の暮れ、突如『創作』編集の依頼が舞い込む。
明治43年	3月、『創作』創刊。文壇の注目を集める。



『創作』第1巻第1号表紙

『若山牧水伝』には、次のように記してあります。
「(略) こうして『創作』は3月1日を以て(もって)華々しく創刊されたのである。(略) 『創作』創刊号は果然(かぜん)全歌壇のいや全文壇の視聴を集めてしまったかの観があった。久しく萎微(いび)していた詩歌壇が俄然活気を呈して来たほどである。(略)」

尾上柴舟(おのえさいしゅう)、窪田空穂(くぼたうつぼ)、北原白秋ほか名だたる顔ぶれの短歌、評論、詩等々の作品が寄せられ、これは当時の文壇中の注目を集めたこと、間違いなしです。

その巻末に「茫漠の命より」と題された牧水先生の短歌が34首並びます。文学館だより冒頭の一首もここに掲載されています。15冊の歌集はもちろんのこと、この詩歌雑誌『創作』も牧水先生が残した代表たる作品なのです。

茫漠の命より

若山牧水

衰へしわが^{しんけい}神経にうらひゞきゆふべしらじら雪ふりいでぬ
なほ耐^たふるわが^{にくたい}肉體をつらくみ毒すゝるごと酒をむさぼる
われ歌をうたひくらしして死に行かむ死に行かむとぞ涙を流す
一時の鐘とほくより響きいや深に三月風吹く夜のなやむかな
夕陽の赤くしたゝる^{くわうせん}光線にうかびいでたり岬の街は
春白晝こゝの港に寄りもせず岬を過ぎて行く船のあり

参考 『創作 第1巻第1号』 『若山牧水全集 補巻 年譜』 『若山牧水伝』
『短歌誌 創作 (タ刊デイリー連載記事)』 『まんが若山牧水』

おわりに

日向若山牧水顕彰会会員のみなさまをはじめ、全国からお越しいただく牧水ファンのみなさま方に支えられ、私たちの毎日があります。たくさんの方々と出会い、たくさん学びを日々いただいています。

今日も、牧水短歌と『創作』について問い合わせがありました。その場で即答できず時間をいただきましたが、短歌については、全集をひもとき一言一言確認し、『創作』は指定のものを手に取り、合わせて関連資料にも目を通しました。お客様に正しくお伝えすると同時に、私自身がお客様を通して学びをいただいているのです。

当文学館は平成17年4月1日に開館し、令和2年度は15周年を迎えます。温故知新の言葉どおり、引き継ぐべき心は大切に引き継ぎながら、新しい企画事業を展開していきます。

今後ともみなさまの変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

世界各地で患者発生報告が続く新型コロナウイルス。多方面にわたり対応に苦慮されていることと思います。当館も先月末から今月にかけて、団体様のキャンセルが続いております。大事に至ることなく、収束することを願わずにはられません。どうぞみなさま、正しい情報収集に努められ、健康にお過ごしください。